

関係委員意見聴取書面	
関係委員 (敬称略)	(所属)新潟大学農学部農学科 教授 ----- (氏名)関島 恒夫
聴取日	令和3年1月22日(金) 2月5日(金)
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 藤井審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 中村審査官
要領4.(2)利害関係者の除外	
・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 利害関係                      有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
要領4.(3)秘密保持の承諾	
・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 _____ <input checked="" type="checkbox"/> 承諾                      ・                      非承諾 _____	
<関係委員意見概要>	
オジロワシ等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死骸の発見は4月～6月が多いが、積雪期にバードストライクが発生した個体もあると思う。</li> <li>・バードストライクリスク図の作成に当たって、探餌飛翔に限定しているが、この場合、渡り個体が含まれないこととなるので、渡り個体を含める必要がある。</li> <li>・既設の風力発電設備において、西側のバードストライクが多く発生しているが、バードストライクが生じた場所の風力発電設備の影響、立地特性等の原因の検証が必要である。</li> <li>・既設の風力発電設備において、西側のバードストライクが多く発生していることから、その配慮は最大に取らなければならないと思う。</li> <li>・オジロワシ・オオワシについて、日本に飛来する多くが、対象事業実施区域及びその周辺に、一時的に集まってくることから、種とか個体レベルに影響があった場合に、影響が大きいことからより慎重に配慮する必要がある。</li> <li>・渡りの調査地点の MB5 の位置が区域から距離があることから、他の渡りの調査地点を考えると、その間の部分の精度は保証されていない飛翔軌跡だと思う。</li> </ul>

関係委員意見聴取書面

関係委員 (敬称略)	(所属) 東北鳥類研究所 所長 ----- (氏名) 由井 正敏
聴取日	令和3年1月22日(金) 令和3年2月7日(日)
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 藤井審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 中村審査官
要領4.(2) 利害関係者の除外	
・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 利害関係 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
要領4.(3) 秘密保持の承諾	
・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 <input checked="" type="checkbox"/> 承諾 ・ <input type="checkbox"/> 非承諾	
< 関係委員意見概要 >	
オジロワシ等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バードストライクリスク図の作成に当たって、地形的要因を選定することは妥当かと思う。また、バードストライクは探餌飛翔以外にも、モーションスミア現象でも発生することから、探餌飛翔のみで分析することは良くない。</li> <li>・年間衝突回数推定値は、繁殖期(非越冬期)のみのデータを使っていることや環境省モデルのみを使っていることが問題。</li> <li>・海岸段丘などのリッジ地形は側面上昇気流が生じて、オジロワシなどの猛禽類がそこをよく利用し、結果としてバードストライクが多くなることは昔から分かっている。</li> <li>・視認性を高める措置として、すべての新規風車のタワー中間部とブレードに目玉マークを付けるか、海外の事例では風車の1枚のブレードを真っ黒にするという方法がある。</li> <li>・渡りのオジロワシの数は年次変動がある。従って、渡り数やコースの変化を3年くらいは見る必要がある。</li> </ul>